

### 03 夫婦で部落差別を伝える（同和問題）

5 (ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、立川生志がお届けします。今日のタイトルは「夫婦で部落差別を伝える」です。

10 部落差別を乗り越え、16年前に結婚した滋賀県の石井さんご夫婦にお話を伺いました。

15 【眞澄さん役】私は学生時代、部落出身の女性と付き合ったことがあります。当時、親から「怖い地域の子だから、やめとき」と言われました。「差別するのは間違ってる」と反発したものの、信頼する親の言葉に影響され、悪い地域なのかな…と疑ってしまいう自分もいました。

20 その後に妻と縁があり、同和問題をちゃんと知りたいたいと思うようになりました。

25 (ナレーター) 部落で生まれ育った、妻の千晶さん。差別を受けた経験や、夫の眞澄さんとの出会いを語ってくれました。

30 【千晶さん役】中学1年生の夏休み、友達の家に行ったときのことです。友達のお母さんが「あの子と遊んだらあかん」と言うのが聞こえ、すごくショックでした。それ以来気まず

25

くなり、もう友達はいらないと思いました。ところが卒業の直前、その子から声をかけられたんです。

「あのときはごめん。人権学習を受けて、自分でいろいろ考えた。部落差別で友達をやめるっていうのは違う。」

彼女も悩んだことを知り、また人を信じられるようになりました。

30

しかし、高校時代に彼氏の親から「付き合うのはいいけど、結婚は反対する」と言われ、再び差別の現実に直面しました。その後、眞澄さんと出会い、彼は「差別はおかしい」とはつきり言ってくれたので、初めて一緒に乗り越えていける気がしました。

35

【眞澄さん役】私は同和問題を理解するために、部落のことを学んだり、部落の人たちと交流したりしていました。結婚は親の反対を覚悟し、時間をかけて説得するつもりでした。

40

ところが、「幸せになりなさい」とすんなり認めてくれたんです。以前と違う態度にびっくりしましたが、学生時代に悩む自分を見ていた両親は、親しいお寺の住職に相談し、人権について学んでいたことを知りました。結婚後は、「以前の自分たちは間違っていた」と、涙を流して妻に話してくれました。こんな高齢になっても、正しいことを学ぼうとする姿に心打たれ、誇りに思いました。

45

(ナレーター) 石井さんご夫婦は、今も全国各地で講演を行い、自分たちの経験を通して、正しい知識を学ぶ大切さを伝

えています。

50

(本文943字)